

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500118		
法人名	社会福祉法人もろ栄福祉会		
事業所名	グループホーム鶴の郷		
所在地	栃木県鹿沼市茂呂字極瀬243番地8		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様の自主性・自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで生きがいを感じて頂き、『もうひとつの我が家』と思って頂けるようなグループホームに努めている ・ご愛用の家具等をお持ち頂き、慣れ親しんだ環境作り(和室・洋室を希望等により選択して頂く 等) ・中庭に面し、日当たりの良いリビングダイニングスペースを中央にし、各居室を配置している ・瓦作りの建物で木目等を生かした空間で昔を思い出して頂ける環境整備している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人内で平成17年から特別養護老人ホームを運営しており、その運営をとおして地域密着型介護の必要性を感じたことから、平成23年4月に当グループホームを開設した。開設当初から職員も一丸となり利用者の気持ちに添った支援をしようと前向きに努力しており、開設して1年足らずであるが、職員と共に成長していくと感じられるホームである。『食は楽しみである』という施設長の考えから、管理栄養士を配置し、免疫力アップメニューなどを取り入れ、利用者の食を大切にしたい取り組みがなされている。設備面では風呂も広く、建物も木のぬくもりを感じられる造りになっており、昔懐かしい置物が飾ってある心落ち着ける環境のホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	項目
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を知っていても、深く理解はできていないように思う。今後さらに管理者との話し合いを行い理念を通じて施設が目指すサービスのあり方を考えていきたい。	法人の理念である「誠の絆」を基に、グループホームの年間目標と月間目標を掲げると同時に職員の年間目標も掲げており、朝のミーティングで話し合いサービスの向上に繋げている。毎月時間外に行うグループホーム会議や、ユニットごとのミーティングでは振り返りを行い、翌月の目標に活かし実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、施設の行事等で交流し取り組んでいる。	夏祭りなどの行事には地域の方の参加や子供お囃子が来て演奏してくれる等の交流がある。また、散歩時には地域の方と挨拶を交わす他に、時には野菜を頂くこともあり、少しずつ地域に馴染んできている。今後は、敬老会や近くの保育園との交流、自治会への加入等の地域活動への参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々へ向けては、まだ十分とはいえないが、家族会、運営推進委員会や夏祭り等を通じ、少しずつ知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の回数を重ねるごとに、報告や情報交換だけでなく、意見交換をサービスに生かすことができるようになってきた。	民生委員・市職員・家族代表・自治会長等の参加を仰ぎ、偶数月に運営推進会議を開催している。家族には交代で毎回参加して貰っている。会議では、当ホームの状況報告や情報交換、意見交換をし、サービスの向上に活かしている。ホームにAEDを設置した際には、広報誌に載せ、地域へ回覧し周知してもらったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、市町村担当者と連絡を取り合いサービスの向上に努めている。	市の担当者は運営推進会議に出席しており、グループホームの実情や取り組みを知ってもらっている。また、疑問点等は電話や市役所へ出向いて相談するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。さらに、県や市主催の認知症サポーター研修に参加した。地域の方に知ってもらうきっかけづくりとして、家族会の行事を通して認知症の勉強会も行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を通じ、職員も身体拘束について学んでいる。利用者様の要望等を考えた上で、拘束しない介護を目指し取り組んでいる。	身体拘束ゼロ委員会があり、法人主催の研修会に参加し、グループホーム会議で報告、勉強会を行っている。落ち着かない方は、一緒に歩き見守りをしながら声をかけ支援している。敬語を基本とし、言葉の拘束や行動制限をしないケアを重要と認識し、それに取り組み支援している。玄関の施錠は夜間のみ行い、日中は開放している。	

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内会議を通じ、高齢者虐待防止関連法を勉強し、高齢者虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に学び、実際に成年後見制度を活用できるよう支援している。成年後見制度を利用されている方も入所している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、常に分かりやすくを心がけ、安心して入所できるように、不明な点等の確認を行い、施設を理解し、納得して入所できるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事等で、また面会時にも気付いた点についてお話しいただけるような機会を設け、問題点はすぐに改善し、サービスの質の向上に反映させている。	年2回開催している家族会や、餅つきや夏祭りの等の行事の際に意見や要望を聞いている。また、面会時にも職員の方から声かけを行い、話しやすい雰囲気の中で些細なことでも聞く機会を設けている。以前、タンスの中の整理や、洗濯物のしわ等についての意見があり、すぐに改善し、サービスの質の向上に活かしている。	家族からの細かい要望や意見を把握し、不安の解消やホームのサービスの質の向上に活かす意味でも、無記名のアンケートをとる等を検討し、実践する事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議や面談の機会を設け、意見を収集・反映している。	月1回グループホーム会議やリーダー会議において職員の意見や提案を出してもらい、提案書を作成し施設長に提出し、出来る事を反映させている。初詣や初午のしもつかれ作りの行事、トイレの手すり、洗濯干場の必要物品等が提案され改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員と話せる機会等を設けると共に、人事考課等を行うことにより各職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修参加はもちろん、日常での疑問等は、その都度確認し、人材育成に取り組んでいる。		

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	できる限り施設外研修へ参加し交流を持ってもらうと共に、法人内でも研修・委員会等の交流をもち、サービスの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に本人の意向を確認したり、入所後もご本人にその都度、確認しながら対応し安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族の意向等も確認把握するよう対応している。入所後もよりよい信頼関係を気付くため、面会時等には、コミュニケーションを図れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の実調を踏まえて対応し、その都度、意向等も確認し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側でなく、ひとりの人間であり、人生の先輩ということをおき、生活の場として関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は、ご本人様を良く知る一番近い存在であることを念頭におき、ご家族様の思いを大切に、話しやすい環境を考えながら、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様がこれまで築き上げてきた事や生活が継続されるよう取り組んでいる。些細な会話で得た情報も職員間にて共有化し、可能な範囲で以前の習慣等が継続できる様に努めている。	利用者がこれまで大切にしてきた事や馴染みの場所との関係が途切れないよう、美容室や商店等は家族の協力のもと継続して利用している。妹さんが来訪される方もいる。また、お正月に年賀状を書きたいとの要望があり、家族あてに出すなど、習慣等が継続できるような支援もしている。	

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を大切にし、利用者様同士との交流も深められる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後もご本人様が安心して暮らせるよう、積極的に家族様等と話す機会を設け、相談等に応じ対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、ご本人様やご家族様に確認しながら、意向や生活リズム等の把握に努めている。また、職員間でも情報を共有し、その人らしい生活を常に考え、取り組んでいる。	24時間シートを使用し、日常生活動作を把握し、本人の意向や思いに沿った生活が送れるよう支援している。困難な場合は、家族から以前の状況を聞いたり、本人の反応をみながら支援している。また、[紐ときシート]を取り入れ、8つの視点(習慣・思いなど)から考えた取り組みで、より本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後共に、現在までのご本人様の歴史等をご本人様やご家族様に確認し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアシート・24時間シート・モニタリング・アセスメントにて常に現状の把握に努め、情報把握や共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメント・モニタリングを行い、より良いケアを提供できる様に努めている。	2ヶ月毎にあセスメントとモニタリングを行い、6ヶ月毎に担当者会議を開催し、より良いケアとサービス提供が出来るよう、現状に即した介護計画を作成している。また、家族には電話で確認して貰うと同時に意見をもらい、面会時にも報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般を記録し、記録をみれば、ご利用者様が分かる記録を目指取り組んでいる。また、職員間の情報の共有や日々のケアにつながるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1つの考え方に捉われない、その時の利用者様のニーズに対応できるように、日々柔軟に検討し、取り組んでいる。		

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用しご利用者様の生活が充実できる様に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様との連携を図り、かかりつけ医での受診ができる様にしている。	かかりつけ医の受診は家族の協力で行っている。緊急の場合はホームで対応しており、適切な医療が受けられるよう支援している。歯科の治療が必要な方は、協力医である近くの歯医者を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があれば、看護職に相談し、対応方法も検討している。適宜、ご家族様へ状態等について電話連絡すると共に、必要に応じた病院受診の依頼をし、安心して暮らせりように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、病院のモニター等に参加させてもらうなど、常に病院の担当者と密に連絡を取り合い、できる限り早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご本人様の終末期のあり方について話し合いを設け、支援していけるよう努めている。また、同法人内での見守り委員会に参加し、終末期のケア等について話し合い、かつ勉強し取り組んでいる。	法人内の看取り委員会に参加し、終末期のケア等について話し合い、救急救命の方法やAEDの取り扱いなどの勉強会を行っているが、まだ看取りはない。現段階では看取りの対応は難しいが(看護師や協力医等の関係など)、家族の希望を尊重しながら、入居時や、入居後に変化が生じた際には随時話し合っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを設置し、その他外部研修に参加し、かつ内部研修を行うなど、知識の修得や実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防立会いの避難訓練・通報訓練・消火訓練を行い、緊急時でも対応できる様に取り組んでいる。また、災害時のための非常食等も準備している。	年2回消防署立会で避難訓練・通報訓練・消火訓練を昼夜の想定で行い、利用者も参加している。訓練では、手引きで8分弱かかったが、車いすの方が早く避難できるのでは等の意見もあった。法人の事故・災害対策委員会が毎月開催され、参加している。職員は、地域の方に訪問・回覧し参加・協力をお願いしている。3日間分の備蓄もある。	災害対策委員会もあり避難訓練も行っており、その様子を写真で残して取り組んでいるが、いざという時に動ける様シュミレーションしながら、実践訓練を積み重ねていく等今後の取り組みに期待したい。

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライバシーの保護や人格の尊重をし、声掛けに対しても十分に配慮するように心掛けて取り組んでいる。また、常に会議等で接遇・プライバシー等の勉強会を行い、日々向上を目指している。	排泄時はドアは閉めて介助をし、入浴は個人対応で支援している。言葉かけも馴れ合いの関係にならないよう、一線を引いた言葉かけをするよう接遇マニュアルに沿った支援を心がけ、人格やプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、ご利用者様に確認したり、意思決定を選択できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートやケアシートを基に、一人ひとりがさらにその人らしいペースで生活が送れるよう取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際には、ご本人様に選んで頂いたり、化粧をする方・しない方など、その方に合わせた声掛けや時間の過ごし方等の配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片づけまで一連をご利用者様・職員が一緒に行っている。調理・盛り付け味付け等の好みも確認し、食事が楽しいものになるよう支援している。また、管理栄養士を配置し、味・体においしい食事を提供している。	『食は楽しみである』という施設長の考えから、職員に管理栄養士がおり、1200kカロリーの高齢者に適した食事で、バラエティーに富んだ免疫カアップメニュー等ユニークな食事を提供している。米とぎ、盛り付け、味付け等食事の準備や後片付け、又、焼きそばやお好み焼き等の調理も無理のないよう利用者と職員が一緒に行っている。今後、嗜好調査を行う予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配置し、1人ひとりの嗜好や摂取量を把握し、その方に合わせた提供方法を検討しながら味・体においしい食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の一人ひとりの習慣に合わせ、口腔ケアを行って頂いており、声掛けや一部介助等を状況に応じて、対応している。		

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができ、かつオムツ使用の減少に導けるよう検討し、取り組んでいる。	排泄チェック表やケアシートを活用しながら、排泄パターンを把握した声かけを行い、トイレでの排泄を促している。おむつや紙パンツの使用を減らせるよう、排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤にたよらず便秘の原因を追究するとともに、水分摂取や運動等も取り入れ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様に合わせた入浴の時間帯や入浴方法を検討し、対応している。又、安心して入浴して頂ける様に声掛けをしている。	週に2~3回入浴できるよう、支援している。午後入浴が多いが、利用者の希望に合わせて、夕食後に対応している利用者もいる。また、同性希望の利用者にも対応している。安心してリラックスした入浴ができるよう、入浴剤を毎日変えたり、声かけを行う等、個々に支援している。職員1人で支援しているが、2人で介助の時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムに合わせた睡眠時間や前日の夜間や日中の過ごし方に配慮した対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を確認し、ご利用者様一人ひとりに合わせた服薬方法を行っている。また、内服薬チェック表を作成して、服薬管理の確認を徹底し、「薬はご利用者様にとって大切なもの」という意味をもって対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活パターンを把握し、できること見つけだし、ひとつでも多くやって頂けるよう取り組んでいる。また、趣味等の情報収集し、楽しみを持って生活して頂ける様に取り組んでいる。		

グループホーム鶴の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わって頂いたり、ご本人の意向も確認しながら、外出等を行っている。	桜・紫陽花等の花見や初詣、近隣の観光施設に出かけるなど、月1回の外出支援を行い、併せて外食も楽しんでいる。今後はトマト狩りを予定している。また、天候の良いときには散歩で花木センターまで行ったり、希望に応じて買い物に出かけて嗜好食品や衣類を購入するなどの日常的な外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる限り、自己管理を支援している。自己管理が難しいご利用者様には、買い物等の時にお支払していただくなど、できることから支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様希望時等に職員仲介にて家族様へ電話ができる様に支援し、年賀状などで外部との交流が途絶えないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が生活し易いよう、空間作りに関心掛けている。季節に合わせた室内温度の管理や清掃等の環境整備を行っている。	建物は木のぬくもりが感じられ落ち着いた雰囲気であり、昔懐かしい置物がある。玄関、廊下、居間、食堂等は不快な臭いや刺激になるものは無く、トイレのドアノブや手すり等は朝・夕消毒を行い、感染予防に努めている。2ユニット間は開放され行き来も自由であり中庭を囲むつくりである。花や手作りのフラワーアレンジが飾っており、季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係性を大切にして座席等の配置の検討、また、その時の状況に応じて適宜再検討等を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス等の使い慣れた物を持ってきて頂き、以前の生活環境に近く、感じて頂ける様に対応している。	居室のベットはリースで、畳を希望のかたは畳を敷いて対応している。以前の生活環境に近づけられるように、今まで使用していたタンス・チェスト・布団等の馴染みの物を持ってきてもらっている。また、壁には利用者の作品が飾られ、本人が居心地良く生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の出来る事を把握し、リスクを念頭においた上での、環境整備や空間作りを行う様に取り組んでいる。		